

# 仙台市スポーツ推進計画

(中間案)

人とまちの元気をはぐくむ  
『スポーツシティ仙台』

平成 24 年〇月

仙台市

－ 目 次 －

<b>第 1 章 計画の策定について</b> . . . . .	<b>1</b>
1 策定の趣旨	
2 計画の位置づけ	
3 計画の期間	
<b>第 2 章 社会状況の変化</b> . . . . .	<b>3</b>
1 社会状況の変化	
2 震災からの復興におけるスポーツの役割	
<b>第 3 章 今後 10 年間を見通したスポーツの推進</b> . . . . .	<b>5</b>
1 スポーツ推進の基本理念	
2 基本目標	
<b>第 4 章 今後 5 年間の取組の基本的方向</b> . . . . .	<b>9</b>
施策 1 生涯・競技スポーツの推進	
施策 2 スポーツ環境の整備・検討	
施策 3 学校体育との連携	
施策 4 国際・全国スポーツイベントの開催	
施策 5 プロスポーツの観戦機会の拡大	
施策 6 スポーツ活動を応援する気運の醸成	
施策 7 マンパワーの養成と活用システムの構築	
施策 8 スポーツにおける企業、大学との連携	
施策 9 将来を担う次世代の育成	
施策 10 スポーツによる街の活性化	
<b>第 5 章 計画の推進について</b> . . . . .	<b>17</b>
1 数値目標の設定	
2 計画の進行管理	
3 関係部局等との連携	

《資料》 仙台市スポーツに関する意識調査

# 第1章 計画の策定について

## 1 策定の趣旨

これまで、本市ではスポーツを通して「私も、あなたも、まちも、みんなが、元気になる」ことをめざし、豊かなスポーツライフを送ることができるよう、平成14年10月に『仙台市スポーツ振興基本計画（せんだいスポーツ元気プラン）』を策定し「する」、「みる」、「ささえる」の3つの柱で様々な施策を展開してきました。

また、これに先立ち平成6年には、豊かな市民生活を送る文化的活動場所としても利用される、多様なニーズに合ったスポーツ・レクリエーションとの「出会いの場」を数多く創設することを目的とする『仙台市スポーツ施設整備基本計画』を策定し、スポーツ施設の整備及び質的充実に努めてきました。

この二つの計画は、いずれも平成22年度を最終年度とする計画でしたが、この間の取組では、週1回の運動やスポーツの実施率やスポーツ観戦回数などにおいては、数値が増加するなど一定の成果をあげておりますが、一方では、スポーツ行事などへの参加やスポーツボランティア活動の実施などにおいては、目標値に達していないものもあります。

この10年間に社会情勢やライフスタイルの変化などからスポーツを取り巻く環境も変化してきており、更なるスポーツ推進への取組が求められています。

このような状況を踏まえ、今後、本市が目指すスポーツ施策の展開を示すため「仙台市スポーツ推進計画」を策定するものです。

## 2 計画の位置づけ

### (1) 法的な位置づけ

スポーツ基本法第10条に規定されている、地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画、いわゆる「地方スポーツ推進計画」と位置づけ策定するものです。

## (2) 本市の上位計画との関係

国のスポーツ基本計画をもとに、仙台市基本構想並びに仙台市基本計画を踏まえ、仙台市教育振興基本計画や仙台市高齢者・障害者保健福祉計画、仙台市すこやか子育てプラン 2010 など他部局の関連計画とも連携しながら、本市におけるスポーツ推進の基本となる計画として策定いたします。

## 3 計画の期間

本計画は、国のスポーツ基本計画の計画期間と合わせ 10 年間程度を見通したものとして策定しますが、具体的に取り組む施策や数値目標等については、平成 24 年度から平成 28 年度まで 5 年間の内容といたします。なお、5 年経過後につきましては、その時点での進捗状況や社会情勢の変化に応じて、必要な見直しを行うものといたします。

## 第2章 社会状況の変化

### 1 社会状況の変化

本市の人口は少子高齢化が進み、近い将来、人口が減少することが見込まれています。また、経済や社会のグローバル化が一層進展するとともに、情報化の急速な進展により、インターネットや携帯電話などを通じたコミュニケーションが進み、様々な情報を享受できるようになりました。その一方では、対人関係や地域コミュニティの希薄化などが問題となってきています。

そのような時代の変化の中で、スポーツは市民の健康増進や自己実現、余暇活動の充実など、生活の質を高め、多くの人に夢や希望、感動を与え、社会を明るくし、市民の活力の源になっています。このほかスポーツは仲間、コミュニティづくりや青少年の健全育成にも必要かつ重要なツールとなり得るものです。

また、本市に本拠地を置くプロスポーツチーム等が5チームあり、多くの市民が熱い声援を送り、スポーツを愛する文化や温かい心と郷土愛が育まれています。このことは、シティセールスによる経済波及効果や賑わいの創出、情報の発信力など都市ブランド力の向上も期待できます。また、プロスポーツ以外にも、国際スポーツ大会の開催や多くの市民や各種団体のスポーツ活動が活発に行われており、スポーツが市民生活に根付いています。

## 2 震災からの復興におけるスポーツの役割

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、市民生活に甚大な影響を及ぼすとともに、東部沿岸地区を中心に大きな被害をもたらしました。

そのような中、震災からの復旧・復興に向かう市民に、スポーツは、とても大きな役割を果たしてくれました。

震災直後から、多くのトップアスリートが避難所や被災地の学校などを訪問し、児童・生徒や地域の人々と触れ合いながら、市民に笑顔を取り戻してくれました。

また、本市に本拠地を置くプロスポーツチームは、被災地の希望の光として戦い、その活躍は私たちに夢や希望を与えてくれました。

さらには、被災した施設が復旧するにつれ、日常のスポーツ活動の再開を待ち望んでいた市民が、震災に負けず、前に進むきっかけにしたいとする思いを感じました。

このことにより、今まで当たり前のように近くにあり、何気なく行なってきたスポーツが、この震災により、改めて「みる」「する」ことのできる喜びを感じるとともに、スポーツによる人と人のつながりやスポーツの持つ力、大きさを再認識することができました。

今後もスポーツが推進力となり、震災から復興するための大きな役割を担っているものと考えています。

## 第3章 今後10年間を見通したスポーツ推進

### 1 スポーツ推進の基本理念

平成22年度に実施した「仙台市スポーツに関する意識調査」によれば、仙台市スポーツ振興基本計画「せんだいスポーツ元気プラン」を平成14年に策定してから以降、これまで展開してきた各種スポーツ施策についての評価は高く、定期的に運動を行う人の割合は高まってきており、スポーツ施設利用者も増加しています。

一方では、施設の利用のしやすさや、身近に手軽に利用できる施設の数に対する評価は低くなっています。

全体としてスポーツをする方は増加傾向にありますが、年代によって片寄りがあり、10代や30～40代の方々はむしろ減少傾向にあります。

スポーツをする理由としては自身の健康のためとする方が増えていますが、スポーツを行わなかった理由は機会が少ないことが多く挙げられています。

一方で市などが主催した行事への参加率はやや減少していることから、スポーツを行うきっかけ作りや行事開催の情報提供の方法などについての再検討が必要となっています。

また、近年の子供の体力向上施策と併せ、子供の頃から運動習慣を身に着けることが必要であり、これには、スポーツ少年団の活動や中学校での運動部活動との連携が不可欠であります。子供の数の減少とともに教員数の減などによる活動の縮小を地域で支える仕組みづくりも重要となっています。

新計画策定にあたっては、設定した指標や統計資料、事業実績等により、現計画での施策の成果やその取組実績を評価し、継続して進めていく施策についてはこれを継承するとともに、社会情勢の変化を踏まえ、今後スポーツ推進の重点となる施策を明確にして、関連のある施策・事業の相互連携により効果的、効率的に推進するための計画とします。

# 人とまちの元気をはぐくむ 「スポーツシティ仙台」

## 2 基本目標

新計画では、基本理念に基づきスポーツ推進の重点となる施策を中心に展開していきます。

また、スポーツイベント開催による県内外からの集客による経済波及効果も期待できることから、経済・観光分野等との連携も図り、今後5年間で取り組む本市のスポーツ推進施策に関し基本的な方向性を示すものです。

これまでの仙台市スポーツ振興基本計画「せんだいスポーツ元気プラン」のスポーツ施策についての実績を評価した上で、東日本大震災からの復興に取り組み、基本的に「する」、「みる」、「ささえる」といった柱を継承し、これを推進することにより、スポーツ活動が人から人へと世代を超えて広がり、スポーツを通じた様々な交流へとつながっていくことを目指し、新たな柱として「ひろがる」を加え、この4つの柱を目標にスポーツの推進に取り組めます。

### (1) 「する」スポーツ

#### ○ライフステージに応じたスポーツ活動への参加機会の拡大

生涯にわたりスポーツを楽しむには一人ひとりの自主的な取り組みが欠かせません。それぞれのライフステージで興味や関心の度合いに合わせ、継続してスポーツに親しむことができるスポーツ環境を整えます。

#### ○スポーツを生みだす環境づくりの促進

公共のスポーツ施設を始め、学校施設や公園、民間のスポーツ施設な



ども含め、誰もが、いつでも、どこでも、気軽にスポーツに親しむ環境を作り出すことで、スポーツフロンティアが切り開かれ、新たなスポーツ文化の創造・発展を目指します。

## (2) 「みる」スポーツ

### ○国際・全国スポーツイベントの開催

スポーツを観ることはスポーツを推進するだけではなく、生活に彩とゆとり、勇気や希望を与えてくれます。

優れた競技スポーツを観戦することで、感動や共感を覚え、健康や体力の向上、スポーツ参加の動機がふくらみます。

### ○プロスポーツの振興支援

仙台市をホームタウンとするスポーツチームの支援を通じ、多くの方に観戦に訪れてもらい、身近に高いレベルのスポーツを感じてることによりスポーツ文化が広がります。

### ○身近なスポーツ活動の応援

友達や知人など身近な人たちがプレーする姿を観て、応援することも楽しいものです。プレーする方にも力が入ります。

## (3) 「ささえる」スポーツ

### ○スポーツリーダーやスポーツボランティアなどの育成・支援

スポーツに参加し楽しむためには、支え合っていくことが大切です。スポーツリーダーやスポーツボランティアは「する」、「みる」を支えるだけではなく、スポーツによるまちづくりにもかかせません。

### ○大学や企業との連携によるスポーツの支援

「学都・仙台」と呼ばれる本市には多くの大学があります。また、会社内にスポーツチームを持つ企業も多数存在します。これらをスポ

ーツによる結びつきにより連携し，社会全体でスポーツを応援することでまちが活気付きます。

#### (4) 「ひろがる」スポーツ

##### ○スポーツを通した次世代の育成

スポーツは生涯にわたり続けていくことのできるものです。またスポーツを通して世代間の交流や地域コミュニティづくりに果たす役割は大きなものです。

そのスポーツの意義や素晴らしさについて世代を超えて伝えていくことも重要な役割の一つです。

##### ○市民相互の交流や国内外との交流を促進

スポーツは世界共通の文化であり，スポーツによる地域同士の交流や国内外に向けた情報の発信など幅広いスポーツによる交流・連携を促進していきます。

## 第4章 今後5年間に取り組むべき施策

### 1 生涯・競技スポーツの推進

#### (1) スポーツ活動の継続と参加型イベントの開催・支援

スポーツを生涯に亘り続けることで、健康体力の保持のためだけにとどめず、生きがいと自己実現などに広げていくことに取組みます。また、スポーツを始めるためのきっかけ作りの機会をつくる取組みを推進します。

- ・ 市民参加型イベントの推進
- ・ 地域スポーツ大会の開催・支援

#### (2) 地域スポーツ団体の育成・支援

地域で活動するスポーツ団体を支援することで地域スポーツの推進と地域コミュニティの活性化を図り、市民のスポーツ活動を推進します。

- ・ 各種スポーツ団体の育成・支援
- ・ 全国大会等への派遣等助成

#### (3) マイタウンスポーツ活動の推進

小学校区に設立されている学区民体育振興会などとの連携より、地域スポーツ活動の充実を図り、市民が気軽にスポーツに親しむ環境づくりに取り組むことを推進します。また、既存の総合型地域スポーツクラブを支援することで同じくスポーツ環境づくりを推進します。

- ・ 仙台版総合型地域スポーツクラブの創設検討
- ・ 既存の総合型地域スポーツクラブ支援
- ・ マイタウンスポーツデーの開催

#### (4) 高齢者・障害のある人のスポーツ活動の支援

障害の有無や年齢，性別にかかわらず全ての人が同じくスポーツに親しみ，健康で豊かな社会生活を送ることができるように高齢者や障害者のスポーツ活動を支援します。

- ・高齢者運動プログラムの提供 ※ 1
- ・障害者スポーツ・レクリエーション活動の推進 ※ 2

## 2 スポーツ環境の整備・検討

### (1) 身近なスポーツ施設の整備・検討

気軽に運動ができるような施設の整備やスポーツ施設内の有効活用などによるスポーツ環境の整備の検討に取り組めます。

- ・中心部のランニングコースの整備等
- ・既存施設の改修計画の検討

### (2) 大規模スポーツ施設等のあり方研究

既存スポーツ施設の配置，利用者数や仙台の都市環境を検討し，今後必要となるスポーツ施設やスポーツ施設に求められる役割についての研究に取り組めます。

- ・スポーツ施設の必要性などの研究

### (3) 利用しやすい施設サービスの検討

市民利用施設予約システムの再構築を行うことや，今以上にスポーツ情報の収集や発信に取り組むとともに，地域スポーツ情報の交換場所などを作ることによりスポーツに親しむ環境づくりに取り組めます。

また，公園内や市民センター等も含めたスポーツ施設全体の機能拡充や活用促進などに努め，利用しやすい施設サービスに取り組めます。

- ・公園内のスポーツ施設などの機能拡充や活用促進
- ・市民利用施設予約システムの再構築

- ・スポーツ情報の収集・発信
- ・スポーツカフェ設置の検討

#### (4)民間スポーツ組織等との連携

民間スポーツクラブ等との連携より、それぞれが有するノウハウやマンパワーを相互に活用することによりスポーツ・健康運動活動を活性化させるとともに、利用方法などを検討していく組織作りに取り組むことを検討します。

- ・民間スポーツ施設・企業との連携組織創設検討

### 3 学校体育との連携

#### (1)子どもの体力向上への取り組み

スポーツ施設などで行っている未就学児向け事業を積極的に展開し、未就学段階から運動に親しむことに取り組めます。

- ・スポーツ施設での幼児期からスポーツプログラムを提供

#### (2)学校施設開放事業の充実

学校施設地域住民のスポーツ活動、健康づくり、交流活動の拠点として、多くの市民活動ができるよう、引き続き取り組めます。

- ・学校体育施設開放の継続 ※ 3

#### (3)学校における部活動支援

学校部活動を実施していく上での諸問題を改善し、学校・地域・顧問・生徒・保護者が連携・協力して部活動の振興と充実が図られる取り組みを推進します。

- ・学校部活動への外部指導者派遣事業の継続 ※ 3

## 4 国際・全国スポーツイベントの開催

### (1) 国際スポーツイベント開催・誘致

競技レベルの高い国際大会を間近に「みる」とともに、多くのボランティアが大会運営を「ささえる」ことで市民のスポーツに対する関心を高めることに取組みます。また、シティセールス、国際交流を併せて推進します。

- ・ 仙台国際ハーフマラソン等の開催
- ・ 国際総合スポーツ大会の誘致検討

### (2) 全国スポーツイベントの開催・誘致

市民のスポーツに対する関心を高め、競技レベルの高い国内の選手と競い合うことにより、競技者や指導者の技術向上も図られ取り組みを推進します。

- ・ 全日本大学女子駅伝、実業団女子駅伝の開催
- ・ 実業団女子駅伝の開催
- ・ バドミントンJrグランプリの開催
- ・ 各種東北大会の開催

## 5 プロスポーツの観戦機会の拡大

### (1) プロスポーツ地域密着支援

市民共通の財産であるプロスポーツ球団の地域密着を促進させるとともに「みる」スポーツを推進します。

- ・ 仙台に本拠地を置くプロスポーツの支援

## 6 スポーツ活動を応援する気運の醸成

### (1) スポーツ大会開催情報の発信

市内で開催される各種東北大会や地域スポーツ大会の情報を発信

し会場で応援することでスポーツを「みる」気運を醸成する取組みを推進します。

- ・各種東北大会の開催と開催情報の発信
- ・地域で開催されるスポーツ大会の情報を発信

## 7 マンパワーの養成と活用システムの構築

### (1) ボランティア・スポーツ指導者の養成

スポーツ推進委員など地域におけるスポーツ指導者やボランティア活動者に研修を行なうことにより、幅広く質の高い指導を行なえるようスキルアップを図るとともに新たな人材を発掘することに取り組めます。また、スポーツ事故・外傷・障害等の予防に関する研修を行なうことによりスポーツにおける安全の確保に取り組めます。

- ・スポーツ指導者への講習会の開催
- ・地域スポーツ指導者の育成・活用
- ・ボランティア・指導者等養成講習会の開催

### (2) ボランティアネットワークの構築

スポーツを「ささえる」ボランティアのネットワークを構築するための基盤整備を目的として、ボランティア団体との意見交換の場を設けるとともにボランティア活動に必要な情報の提供を行なうことを推進します。また、ボランティア活動へのきっかけづくりとして、気軽に、時間などにあまりとらわれずにちょこっとできるボランティア情報などの発信を行いボランティア活動の推進に取り組めます。

- ・ボランティア団体等のネットワークの構築
- ・ボランティア情報の発信
- ・ちょこボラの推進

### (3) スポーツ活動支援者への顕彰実施

アマチュアスポーツにおいて優秀な成績をおさめたアスリートと永年に亘りスポーツ活動をささえていただいた方々を顕彰します。更にその価値を知っていただくことに取組むとともに、表彰制度の拡充に取り組めます。

- ・スポーツ活動支援者への顕彰制度の充実

## 8 スポーツにおける企業，大学との連携

### (1) 企業内スポーツチームとの連携

市内の企業スポーツチームとの指導者派遣やスポーツ教室の開催など連携策等についての検討に取り組めます。

- ・市内の企業内スポーツチームとの連携策の検討

### (2) 大学との連携事業

在仙の大学との連携による、部活動への指導者派遣や大学施設の開放など大学とのスポーツによる連携策の検討に取り組めます。

- ・大学との連携による施設の利用や指導者の派遣

### (3) 企業からの支援策の検討

市内の企業とのスポーツに関する各種支援策についての検討や組織作りの検討に取り組めます。

- ・企業協賛などシステム化について検討

## 9 将来を担う次世代の育成

### (1) 幼児期からスポーツに触れ合う機会の充実

スポーツの習慣を身につけ、子どもの体力向上に向けた取り組みには、幼児期からの生活習慣によるところも大きいため、幼児期から保



護者ととともに参加できるスポーツ活動の機会を提供することに取り組めます。

- ・多様なスポーツ活動への参加機会の拡大

## (2) 学校体育における健やかな体の育成

運動の日常化を図る取組みを推進するとともに、体育授業等において専門性を有した外部指導者を派遣するなど、子どもたちの体力、運動能力の向上につながる取組みを推進します。

- ・運動の日常化を推進する取り組み ※ 3

## (3) 将来性を有する競技者の支援

地元のスポーツチームが存在することから、身近に高いレベルの指導者や競技者とふれあう機会を作り出していくことにより、将来性を有する競技者を発掘し育成することに取り組むことを検討します。

- ・アスリートによる指導機会の拡大
- ・高いレベルの競技者と触れ合う機会の提供

# 10 スポーツによる街の活性化

## (1) アマチュアスポーツ日本一大会の誘致

日本一を決定するアマチュアスポーツの全国大会の仙台開催を誘致するための各種支援を行い、本市のスポーツの推進を図るとともに、仙台市のブランド力の向上と県外からの人的流入による地域の活性化に取り組めます。

- ・全国大会の誘致・開催
- ・市民スポーツ志向の醸成

## (2) スポーツコミッションの設立の検討

市内で開催される一定規模以上のスポーツイベントの誘致や支援

に向けた組織の設立を目指します。

また、在仙のスポーツチームとの連携によるイベントの開催やスポーツ情報の国内外へ向けた発信、スポーツと観光を組み合わせた「スポーツツーリズム」による交流人口の拡大に取り組みます。

- ・スポーツコミッションの設立を検討
- ・スポーツツーリズムによる地域活性化

### **(3) スポーツにおける広域連携**

近隣市町村とスポーツにおける連携をし、相互に施設利用などを行うことで市民のスポーツの振興や健康増進に寄与することへの取り組みを検討します。

- ・近隣市町村との連携によるスポーツ施設の利用促進策の検討

## 第5章 計画の推進について

### 1 数値目標の設定

計画を着実に推進するための目安として、計画の目標年次である平成28年度における成果として、6つの具体的な数値目標を定めます。

現状を示す指標としては、主に平成22年に行なった「仙台市スポーツに関する意識調査」の数値を用います。

- (1) 15歳以上の市民のうち、50.0%が週1回以上運動やスポーツを行うことを目指します。

週1回以上運動やスポーツを行う人の割合：36.4%→ 50.0%

※現計画における数値目標(50%)を達成していないため、引き続きこれを数値目標とする。

- (2) 15歳以上の市民のうち、40.0%が市や学区民体育振興会などが主催するスポーツ行事に参加することを目指します。

市などが主催するスポーツ行事に参加する人の割合：33.8%→ 40.0%

※現計画における数値目標(50%)を達成していないため、これを見直した数値目標とする。

- (3) 15歳以上の市民のうち、65.0%が年1回以上競技場でスポーツ観戦することを目指します。

年1回以上競技場でスポーツ観戦する人の割合：47.2%→ 65.0%

※現計画における数値目標(25%)を既に達成しているため、より高い数値目標を設定する。

(4) 15歳以上の市民のうち、8.0%がスポーツボランティア活動を経験できる環境づくりを目指します。

スポーツボランティア活動を行う人の割合：5.5%→ 8.0%

※現計画における数値目標(10%)を達成していないため、これを見直した数値目標とする。

(5) 仙台市立小学校の児童(5年生)のうち、50.0%が週3回以上運動やスポーツを行うことを目指します。

週3回以上運動やスポーツを行う児童の割合：46.9%→ 50.0%  
(学校の体育の授業を除く)

※H22 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果(仙台市分)の数値を参考に、数値目標を設定する。

(6) スポーツの全国大会並びに国際大会を、年8回以上開催することを目指します。

スポーツの全国大会並びに国際大会の開催数：年5回→ 8回以上

※現在、仙台市が主催又は共催している全国大会・国際大会の数を参考に、数値目標を設定する。

## 2 計画の進行管理

計画の推進のため諸事業が円滑に実施され、基本目標が達成されるよう、定期的に実施状況を把握し、適正な進行管理に努めます。

## 3 関係部局等との連携

スポーツを表現するものは広域な領域を含むため、様々な分野を所管する他の部局の関連計画との整合性を図り組織横断的な取組みを行うとともに、公益財団法人仙台市スポーツ振興事業団との連携により、スポーツを取り巻く情勢の変化に対応した、効果的で厚みのある事業を展開しスポーツの普及振興を図ります。